

職業実践専門課程の基本情報について

Table with columns: 学校名, 設置認可年月日, 校長名, 所在地, 設置者名, 設立認可年月日, 代表者名, 所在地, 分野, 認定課程名, 認定学科名, 専門士, 高度専門士, 学科の目的, 認定年月日, 修業年限, 2年, 生徒総定員, 640人, 学期制度, 長期休み, 学修支援等, 就職等の状況, 中途退学の現状, 経済的支援制度, 第三者による学校評価, 当該学科のホームページURL

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者であり、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員・雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者(含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱われない)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

コンサート・音楽業界に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。また、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容及び方法について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、学校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
今泉 裕人	一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	①
杉山 一夫	株式会社リンキディンク 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	③
今井 常夫	PRG株式会社 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	③
佐藤 純平	株式会社エムエスアイジャパン東京	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	③
遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	
大塚 勝哉	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 課長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	
中村 英詞	日本工学院専門学校 コンサート・イベント科 科長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数は2回の予定、開催時期は9月及び3月の予定

(開催日時)

第1回 2019年3月12日

第2回 2019年9月30日

第3回

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会から、議事録は新入社員に書かせる企業も多く、文章を要約してまとめるスキルが直ぐに必要なため、新聞記事を要約させて要望があった。現在キャリアデザイン科目で新聞記事要約の取り入れて授業内容を改善し反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

コンサート制作・運営・進行・オペレートの実習において、実践的な指導を受けるためにコンサート・音楽業界での実績のある企業を選定している。また、指導を受けるにあたっては各分野で必要となる知識、技術、感性を有している講師の派遣などの協力が得られることが可能な企業を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

学科担当教員と連携企業の(株)ホットスタッフ・プロモーションとの間でコンサート技術や知識について意見を交換し、授業計画、評価方法、学生指導上の問題点、改善案などを計画し、実際に年2回(7月・1月)赤坂BLITZ等使ってライブ実習を行う。企画立案から本番運営までの過程における授業内容・方法等について検証し、学生指導上での問題点、改善案を話し合う。授業の成果物をもとに派遣講師が採点し、学科担当教員とともに成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ベーシックプロダクト1	コンサート運営に関わる各スタッフの役割を理解しつつ、全てのコースの基礎部分を実習形式で学習します。	株式会社ホットスタッフ・プロモーション/株式会社チームアクティブ/合同会社M&S
ベーシックプロダクト2	一般照明の種類・効果・照明プランニング、ミキサー・スピーカー・エフェクター・舞台装備などの取り扱い方を習得します	株式会社ホットスタッフ・プロモーション/株式会社チームアクティブ/合同会社M&S
ライブプロダクト2	2年間の集大成として卒業コンサートをを行い、プロアーティストのコンサート全般の運営(企画・制作・舞台・PA・照明)を実施します。	株式会社ホットスタッフ・プロモーション/株式会社チームアクティブ/合同会社M&S

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「研修規程第1条 教員が専攻分野における授業科目や授業科目以外の担当業務等指導力の修得と向上を目的として、企業等連携研修を行う講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定」における目的に沿い、講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得させる。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「足場などの組立て特別教育/フルハーネス特別教育」(連携企業等: 全国舞台テレビ照明事業協同組合)

期間: 9月3日(火)/9月4日(水) 対象: コンサート・イベント科教員

内容: 全国舞台テレビ照明事業協同組合から講師を招いて

・コンサート現場でも使用する足場の組立て作業や作業に於ける注意点など

・高所での作業に於ける転落を防止する器具の安全税と向上と適切な使用などを学びます、

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員研修」(連携企業等: 株式会社ホットスタッフ)

期間: 7月31日(水) 対象: ミュージックカレッジ全教員

内容:

・保護者とのリレーションシップについて

・学生指導に於ける、姿勢と方法論

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「未定」(連携企業等: 未定)

期間: 11月 日程は未定 対象: コンサート・イベント科 教員

内容:

・最新技術への研究と導入について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員研修」(連携企業等: 未定)

期間: 3月 日程は未定 対象: ミュージックカレッジ全教員

内容:

・退学率について

・教育内容の確認と次年度に向けての修正点

・アクティブラーニング活用法について

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	IT企業等委員 /卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター 顧問	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員/ 卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	クリエイターズ/ デザイン企業等委員
西川 恭子	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
須賀 寛光	学校法人上野塾 東京実業高等学校 電気科科长	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/29_jikohyouka_neec.pdf

http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/29_kankeishahyouka_neec.pdf

公表時期: 2019年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:

http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/28523/30_opendata_neec.pdf

授業科目等の概要

(芸術専門課程 コンサート・イベント科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル1	仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるためのトレーニングをします。	1・前	15	1	○			○	○			
○			ビジネススキル2		1・後	15	1	○			○	○			
○			ベーシックスキル1	音楽業界・放送業界に必要な専門知識の基礎を学びます。	1・前	15	1	○			○	○			
○			ベーシックスキル2		1・後	15	1	○			○	○			
○			キャリアデザイン1	自分の人生・キャリアについて、すべてに共通するポリシーとスキルを学びプランニングします。	1・前	15	1	○			○	○			
○			キャリアデザイン2		1・後	15	1	○			○	○			
○			ワークショップ1	クラス単位でライブ企画や制作プロジェクト、ボランティア活動、就職・進路指導などを行います。	1・前	15	1	○			○	○			
○			ワークショップ2		1・後	15	1	○			○	○			
○			プレゼンテーション1	資料のまとめ方、発表法などプレゼンテーションに必要な技法を学びます。	1・前	15	1	○			○	○			
○			プレゼンテーション2		1・後	15	1	○			○	○			
○			イントロダクション	新入生オリエンテーションと導入教育を行います。	1・前	120	8	○			○	○			
		○	資格対策講座1	ビジネス検定、MIDI検定、ラジオ・音響技能検定、JPPA、Pro Tools、イベント検定、Word・Excel検定などの資格受験対策講座です。	1・前	15	1	○	△		○	○			
		○	資格対策講座2		1・後	15	1	○	△		○	○			
		○	特別講義1	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・前	15	1		△	○	○			○	
		○	特別講義2		1・後	15	1		△	○	○			○	
		○	海外研修1	各学科の特色に基づいたプランで、本場のエンタテインメントを体感します。(研修先、行程は毎年異なります)	1・通	30	1		△	○	△	○	○		
		○	ボランティア1	社会貢献、地域貢献といった体験を通して自身も社会に関する喜びを得ていきます。	1・通	30	1		△	○		○	○		
		○	インターシップ1	本校提携・協力関係の企業で行われる企業研修です。	1・通	30	1		△	○		○	○		

○		ベーシックスキル3	社会人になるにあたってのビジネスマナー、著作権等法規、音楽基礎知識、パソコンスキル、一般常識等、幅広く学習します。	2・前	15	1	○	△		○	○		
	○	ベーシックスキル4		2・後	15	1	○	△		○	○		
○		キャリアデザイン3	自分の人生・キャリアについて、すべてに共通するポリシーとスキルを学びプランニングします。	2・前	15	1	○			○	○		
	○	キャリアデザイン4		2・後	15	1	○			○	○		
○		ワークショップ3	クラス単位でライブ企画や制作プロジェクト、ボランティア活動、就職・進路指導などを行います。	2・前	15	1	○	△		○	○		
	○	ワークショップ4		2・後	15	1	○	△		○	○		
	○	資格対策講座3	ビジネス検定、MIDI検定、ラジオ・音響技能検定、JPPA、Pro Tools、イベント検定、Word・Excel検定などの資格受験対策講座です。	2・前	15	1	○			○	○		
	○	資格対策講座4		2・後	15	1	○			○	○		
	○	特別講義3	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・前	15	1	○			○	△	○	
	○	特別講義4		2・後	15	1	○			○	△	○	
	○	海外研修2	各学科の特色に基づいたプランで、本場のエンタテインメントを体感します。（研修先、行程は毎年異なります）	2・通	30	1		△	○	○	○		
	○	ボランティア2	社会貢献、地域貢献といった体験を通して自身も社会に関する喜びを得ていきます。	2・通	30	1		△	○	△	○	○	
	○	インターシップ2	本校提携・協力関係の企業で行われる企業研修です。また、内定企業で行われる長期研修です。	2・前	420	14				○	○	○	
○		英語1	日常会話から始まり、海外研修で使える程度までを学びます。	1・前	15	1	○			○	○		
○		英語2		1・後	15	1	○			○	○		
○		ミュージックジョブ1	音楽業界、音楽に関連した職業につくための知識を幅広く学習します。	1・前	30	2	○			○		○	
○		ミュージックジョブ2		1・後	30	2	○			○		○	
○		コンサート概論1	コンサートに関する全ての知識を学び、単なる技術者としてだけでなく、業界をリードする人材としての知識、能力も身に付けます。	1・前	45	3	○	△		○		○	
○		コンサート概論2		1・後	45	3	○	△		○		○	
○		スコアリーディング1	音楽系スタッフとして大切なスコア（総譜）の読譜を代表的な曲を使用しながら学びます。	1・前	15	1	○			○		○	
○		スコアリーディング2		1・後	15	1	○			○		○	
○		ライブステージ鑑賞1	アーティストの生演奏や講演などを聞き、アーティスト及び周辺も含めたプロの技術を学びます。	1・通	30	2				○	○	○	

		○ 特別講義A	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・前	30	2	○		○		○		
		○ 特別講義B		1・後	30	2	○		○		○		
○		ベーシックプロダクト1	コンサート運営に関わる各スタッフの役割を理解しつつ、全てのコースの基礎部分を実習形式で学習します。	1・前	180	6		△	○	○		○	○
○		ベーシックプロダクト2	制作運営の基礎を学び、現場スタッフの仕事を実践します。一般照明の種類・効果・照明プランニング、ミキサー・スピーカー・エフェクター、舞台設備などの取り扱い・使い方などを習得します。	1・後	135	4		△	○	○		○	○
○		ライブプロダクト1	コンサート運営に関わる各スタッフの役割を理解しつつ、本番を意識しながら、安全かつ的確な作業を実習形式で学習します。また1年次のまとめとして行うコンサート制作でもあり、全コース合同で1つのコンサートも作り上げます。	1・前	45	1		△	○	○		○	○
○		ミュージックジョブ3	音楽業界、音楽に関連した職業につくための知識を幅広く学習します。	2・前	30	2	○			○		○	
	○	ミュージックジョブ4		2・後	30	2	○			○		○	
○		作品研究1	プロとして知っておくべき名曲をポピュラー音楽を中心に歴史をたどりながらCD・ビデオDVDなどで知ります。またポピュラー音楽以外にクラシックから民族音楽まで、すべて音楽ジャンルの学習を行います。	2・前	15	1	○			○		○	
	○	作品研究2		2・後	15	1	○			○		○	
○		エンタテインメントプロデュース1	様々な音楽ソフトやエンターテインメント、アーティストを研究し、なぜビジネスとなったかなどを研究し、業界で活躍できるスキルを学びます。	2・前	15	1	○			○		○	
	○	エンタテインメントプロデュース2		2・後	15	1	○			○		○	
○		音楽ビジネス・マネジメント1	1年次で学んだマナーと常識、業界知識を活かした、更に高度な実際に音楽業界に就職した際のビジネスに関わる事を学びます。	2・前	15	1	○			○		○	
	○	音楽ビジネス・マネジメント2	音楽業界、音楽に関連した職業につくための知識を幅広く学習します。	2・後	15	1	○			○		○	
	○	ライブステージ鑑賞2	アーティストの生演奏や講演などを聞き、アーティスト及び周辺も含めたプロの技術を学びます。	2・通	30	2				○	○	○	
	○	特別講義C	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・前	30	2	○			○		○	
	○	特別講義D		2・後	30	2	○			○		○	
○		コンサートプロダクト1	マーケティングを行い、効率的なプロモーション方法を研究します。学内施設を中心としたコンサートを繰り返しながら各コースのプロとしての能力を心身ともに高めます。	2・前	180	6		△	○	△	○	○	○
	○	コンサートプロダクト2	出演交渉や調整を行います。また、予算の管理など、すべてのとりまとめ方を学びます。	2・後	135	4		△	○	△	○	○	○
○		イントロダクション2	就職活動に向けての対策を行い、必要な知識を学びます。	2・通	90	3	○			○		○	
	○	インターシップ3	本校提携・協力関係の企業で行われる企業研修です。	2・通	60	2				○	○	○	

		○	ライブプロダクト2	コンサート運営に関わる各スタッフの役割を理解しつつ、本番を意識しながら、安全かつ的確な作業を実習形式で学習します。また、2年間の集大成として卒業コンサートを行い、プロアーティストのコンサート全般の運営（企画・制作・舞台・PA・照明）を全コースが力を合わせて実施します。	2・後	45	1		△	○	△	○		○	○
		○	カレッジプロジェクト	学生委員会、ワークショップなどで計画したプロジェクトや自主コンサート、ボランティア活動などを実行します。	2・通	60	2		△	○	○	△	○		
合計					62 科目		2520 単位時間(116 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1275時間(64単位)取得および選択科目を450時間(20単位)以上取得し、合計1725時間(84単位)以上取得すること (留意事項)		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	15 週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。